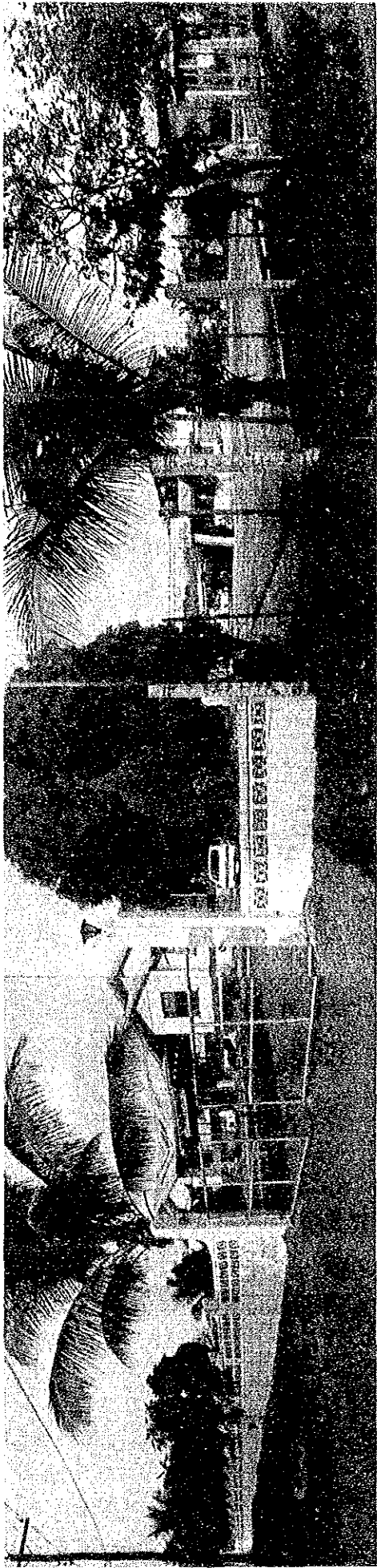


(I - 6) ABRA PROVINCIA HOSPITAL

バングウェッド市 (BANGUED) からアブラーイロコスノルテ道路 (ABRA - ILOCOS NORTE ROAD) を 1.5 Km 北へ行った所にこの病院はある。この道路に沿って、白く塗られたコンクリートブロック塀が 100 m 程続き、その奥に木造の高床形の建物がみえる。手前のマンゴーの大木がその屋根に覆い被さるように枝を伸ばし、気持の良い木陰を落している。

この古い木造の建物は、以前はこの病院のメインであったが老朽化し、1974 年に左側に増築された棟へ診療部門、内科、栄養失調科の病室、事務部門を移し、現在は病室と食堂、厨房として使われている。

敷地は多角形をしているが、ほぼ道路側 (西側) を底辺とする三角形に近い形状である。平坦な敷地ではあるが、本館の裏側は前面より 50 cm 程近い。敷地境界に沿って左から時計廻りに家族計画棟、栄養失調病棟、厨房、霊安室、ランドリー、中央材料、寄宿舍等の新しい建物が配置され、テニスコートの脇に古い木造の医師住宅が 2 棟並んでいる。敷地の面積は 1.3 ha と狭いが、三方団地に囲まれているので増築用地の入手は容易である。



View from the front road



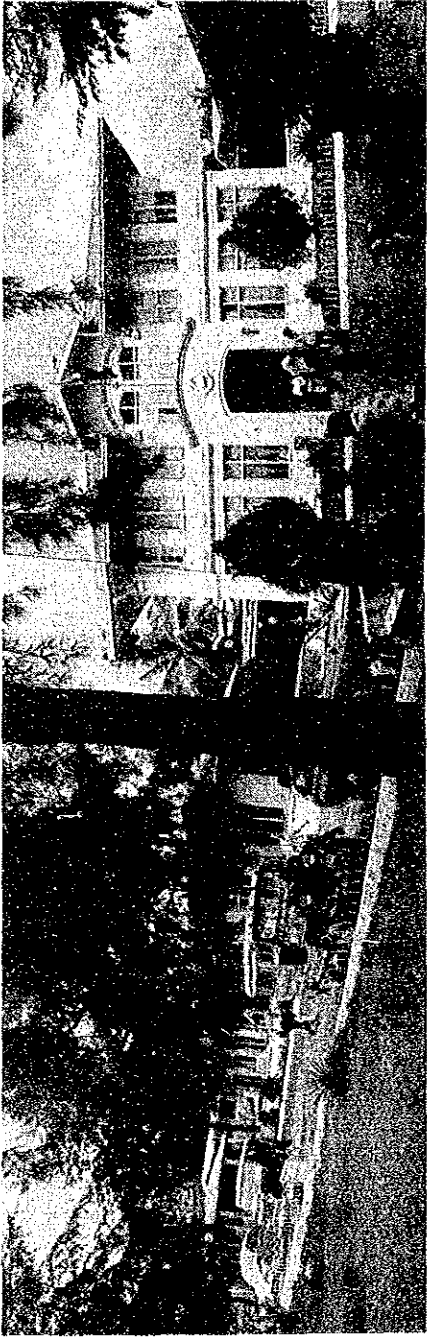
View from the backyard

I-6 ABBA PROVINCIAL HOSPITAL

(I - 7) GABRIELA-SILANG PROVINCIAL HOSPITAL

ビガン市 (VIGAN CITY) 内を、スペイン風の古いレンガ造の家並を抜けてタマック通り (TAMAC STREET) を南へ進むと、道路の両脇にマンゴーの大木の並木が続き、その右手に白いコンクリートブロック塀に囲まれた小高い庭園が見えてくる。糸杉、マンゴー等の大木が覆い茂り、その僅かな葉陰からかいま見える白い建物が GABRIELA-SILANG PROVINCIAL 病院である。敷地の一段高い中央にバンガンナン、ラ・ユニオンの両病院と同じデザインの診療棟がある。この木造の棟を中心に左右に内、外科、産科の病棟が外廊下で連絡している。裏には中央材料、内、外科病棟、事務棟、食堂、厨房棟が敷地境界際まで一杯に建てられ、外廊下で連絡している。このため、外科の診療室と病室が離れていたり、内科の病室が左右 2 ヶ所に配置されているように部屋間の連絡の悪さを持っている。これは狭い用地に平屋の建物の増築を重ねてきたためである。この一群の病棟から離れ左側 (南側) に外来診療棟、その奥に三角屋根の教会、手前一段低い所に医師の住宅がある。右側に当る北側は婦長、医師の木造住宅が点在している。

現在の敷地は間口 220 m、奥行約 110 m の南北に長い長方形でその面積は 2.5 ha 程である。しかし高低差が大きく、東側前面道路に向かって下り勾配であり、道路より中央まで 5 ~ 6 m の差があるように思われる。将来裏側の民有地 1.2 ha 程を購入する計画があり現在交渉中である。この購入予定地は、形状は台形であるが病院の敷地境界を堺に北に向かって 5 m 程度の下り勾配となっている。



Main building



OPD Pavilion and chapel on the left side and main building

I-7 GABRIELA SILANG PROVINCIAL HOSPITAL

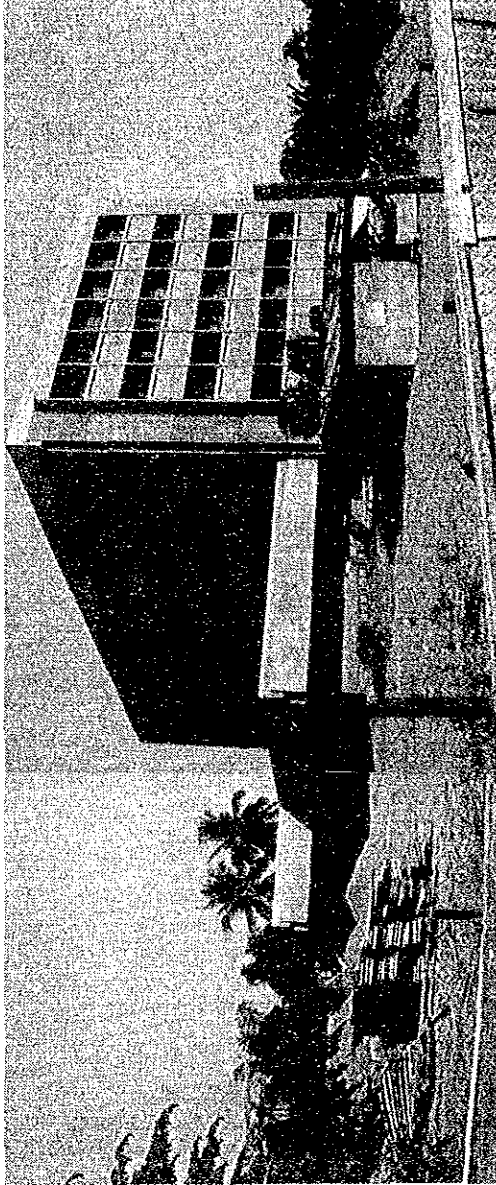
(I - 8) DON MARIANO MARCOS MEMORIAL HOSPITAL

田園を縦貫するマニラ・ノース道路 (MANILA・NORTH ROAD) 沿いに突然表われるコンクリートの地肌は、そのボリュームと現代風のデザインとが相俟って人の目を引きつけるであろう。地下1階、地上5階、延面積 $5,650m^2$ の建物は、この地方では最も規模の大きい建物の一つである。これが今建設中の新館である。工事は8割方完成し内装の塗装を残す程度である。低層階に診療部門をおき、3階以上を病室に、地下階をランドリー、食堂、厨房等サービス部門を配置した中廊下式の近代的な病院として、その治療内容とともにこの国ではトップクラスに位置付けられるものである。ただ、階層が低いために天井高も $2.4m$ しかとれず、レントゲン装置や、手術用の照明器具等の大型医療器材の据付が不可能と思われる部屋が出来たり、中央コア部分の換気が十分取れなかったりする恐れが多分にある。

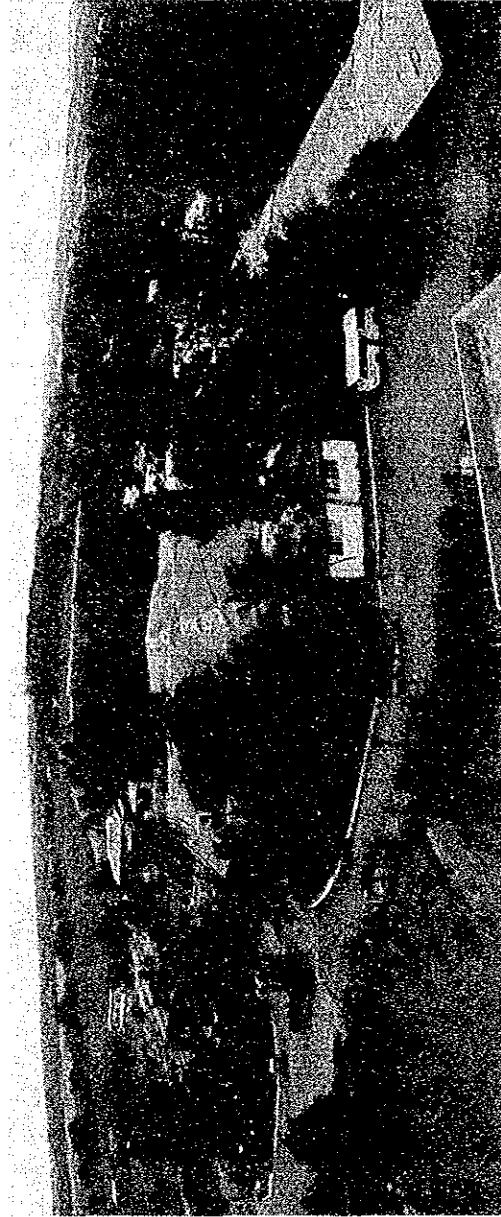
新館の西側には、現在100床の病院がある。1967年に建てられた十字型をした平屋の本館とそれ以後、検査室、隔離病棟、外来診療部や医師住宅、図書室、Powerhouse等のサービス部門が増築され延床面積 $2,170m^2$ の規模になっている。新館に全ての診療部門が移るとこの診療関係の部屋は病床に改築されるということである。これらの建物の更に西側、道路を隔てて3年前に新築された木造2階建の退役軍人用の病院がある。

敷地は約 $2.4ha$ 、マニラ・ノース道路に沿って長方形をした平坦な地形である。

この病院からバタク町 (BATAC) の中心地までは $600m$ 足らずではあるが、周囲を緑に囲まれ新館の屋上から町全体が見わたせる静かな環境にある。



New building under construction



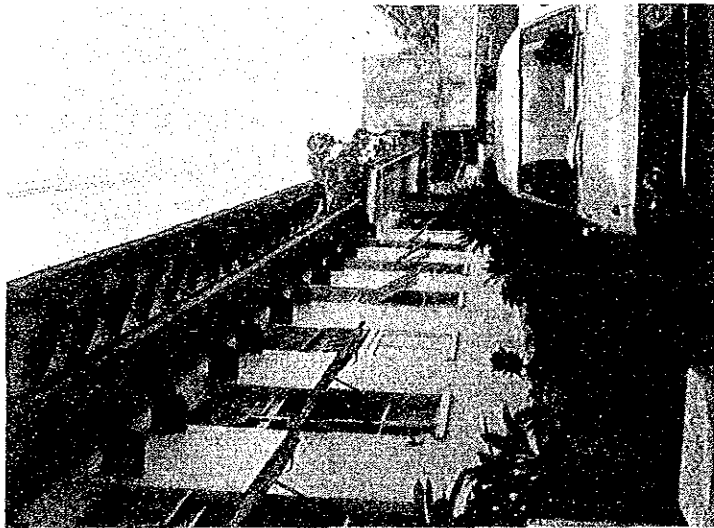
Existing hospital facilities

I-8 DON MARIANO MARCOS MEMORIAL HOSPITAL

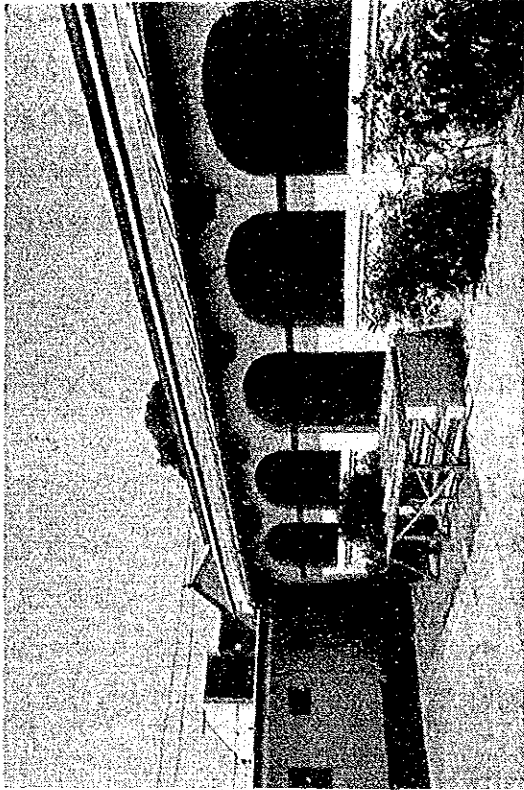
(I - 9) ILOCOS NORTE PROVINCIAL HOSPITAL

1946年にアメリカの援助で改築された本館はコロニアル風のシンメトリーなデザインの建物である。平屋で、中廊下式の部屋配置ではあるが、高い天井、正面と裏側の回廊とが南国の暑気を和らげてくれる。その後、本館の左側に外来診療棟が、裏に手術室、分娩室、本館右裏に栄養失調病棟が棟続きに増築された。更に奥には、内科、外科、伝染病の平屋、プレハブ建の各病棟が増築され、外廊下で連絡している。これらの建物の中央に食堂、厨房棟がある。この一群の建物の右側には、木造の医師住宅、地下1階、地上2階の最近新築されたばかりの看護婦宿舍と、古い木造の教室棟がある。

北側のブルゴス通り (BURGOS STREET) に面し、左右は住宅、裏は林に囲まれた敷地は、道幅より 1.5 m 程高い。全体は平坦であるが、西側に 3 m 程の段差があり、その部分は敷地面積 (1.6 ha) の約 1/5 に相当する。



Side view of main building



Back court



Main building with left wing

I-9 ILOCOS NORTE PROVINCIAL HOSPITAL

(II - 1) CAGAYAN REGIONAL HOSPITAL

(a) 既存建物

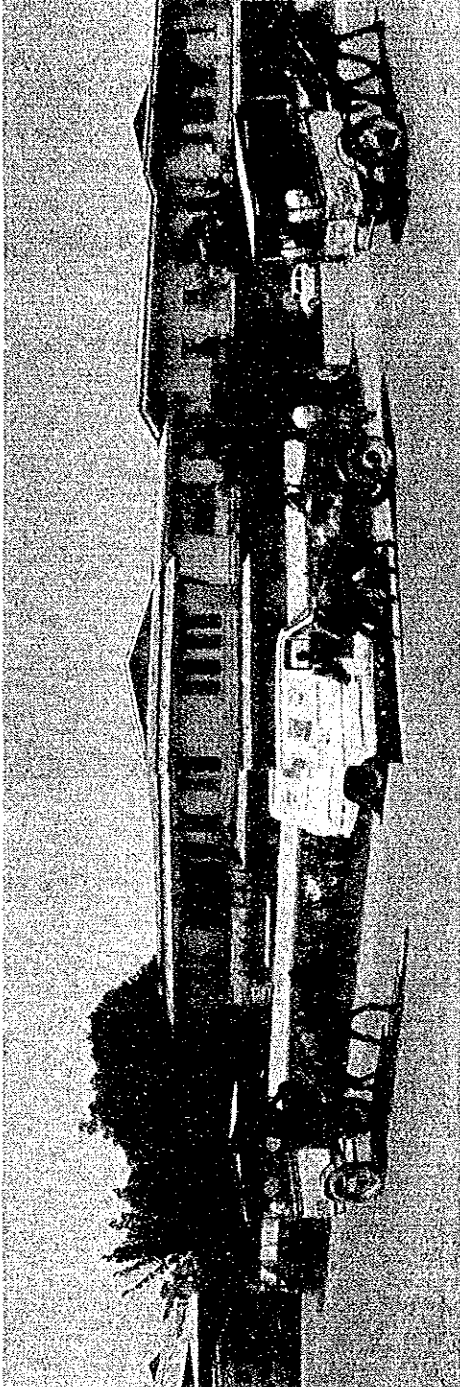
現在の木造2階建の建物は旧PROVINCIAL OFFICEを病院に改修したもので、建物の内部、外部とも老朽化が激しく、使用限界にきているようである。中央に中央診療、病室、事務室を含む本館、左に外来診療棟、本館の裏に食堂、厨房棟、その奥に中央検査と病棟、その左に車庫、右に看護婦宿舎を配している。敷地の北側、道路に接し精神病棟がある。狭い敷地一杯に建物が広がり増築用地はない。街の中のために増築用地の入手も困難である。

(b) 新敷地

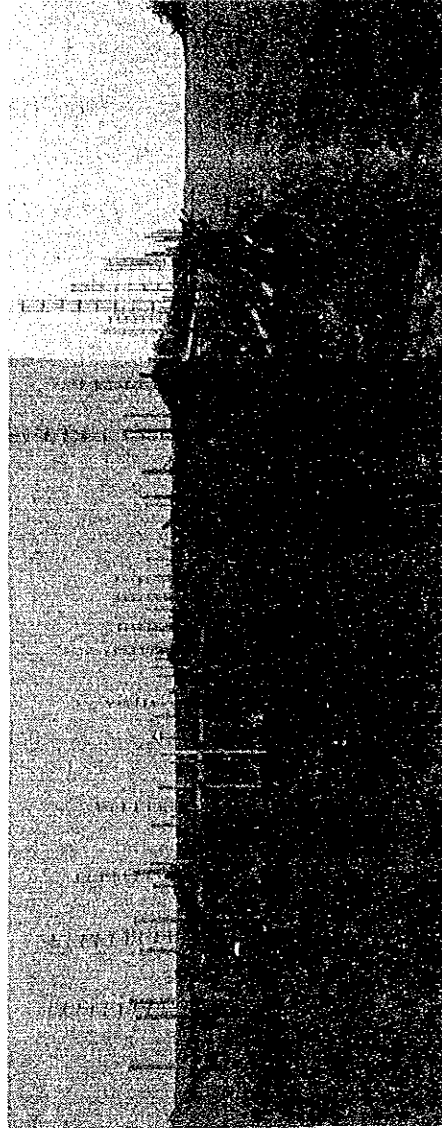
位置はツゲガラオ市(TUGUEGARAO CITY)の中心地から日比友好道路(HIGH WAY 国道5号線)を北へ5 Km程行った道路沿いである。約5 haあるこの敷地は西側を道路と接し、巾150 m、奥行300 m以上の東西に細長い形をしている。地表面は雑草に覆われ特別な障害物はないが、北側から南側へ、東側から西側へ向け4, 5 mの下り勾配がある。このための東西の道路際は道路から約2 m下っている。しかし、南の敷地境に雨期用のクレークが作られ、それがHIGH WAYを貫け河川に接続しているので雨期の水はけは良い。

敷地の奥では200床の精神病院(REGIONAL MENTAL HOSPITAL)の建設工事を公共事業局(BUREAU OF PUBLIC WORKS 以下B・P・Wとする)の手により進められている。現在、中央の診療部分と48床の病棟の基礎工事中である。

敷地の北隣りには私営の結核病院があるが、周囲は小高い草原である。



Existing Cagayan Regional Hospital



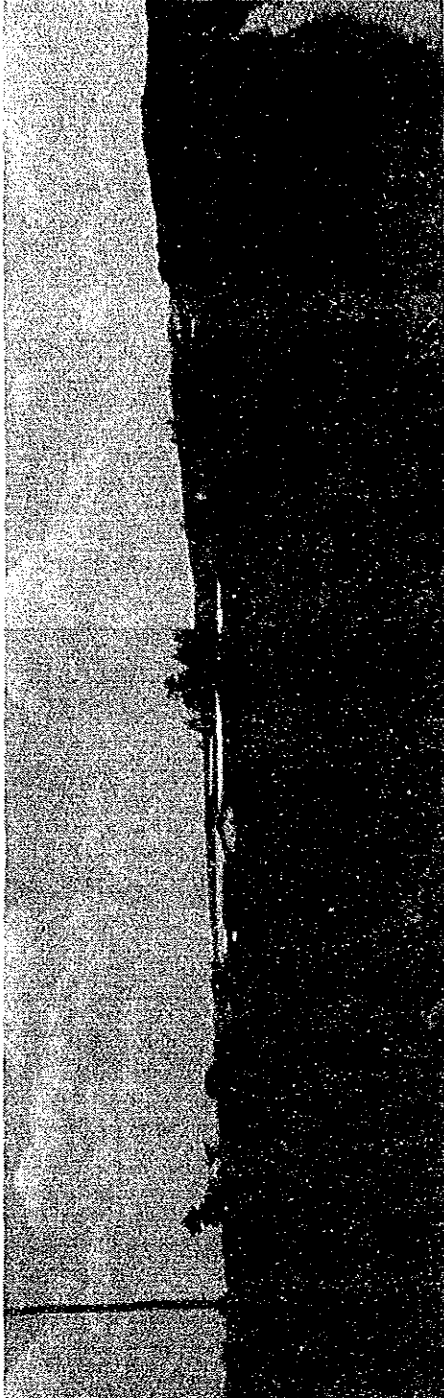
Construction site of Regional Mental Hospital

II-1 CAGAYAN REGIONAL HOSPITAL
II-2 REGIONAL MENTAL HOSPITAL

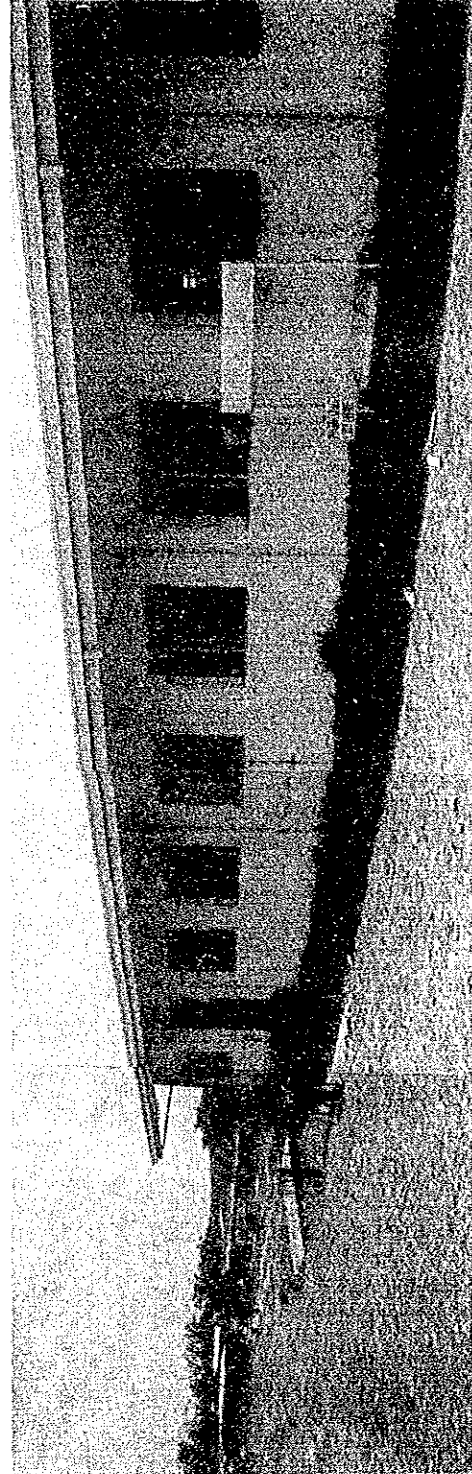
(II - 3) KALINGA APAYAO PROVINCIAL HOSPITAL

砂塵がとぎれ、車のエンジン音が正常に戻り国道を10分間程走行すると左側に、緑色の屋根と白壁が細長く続く建物がみえてくる。その奥に、この平屋の建物と平行に、同じデザインの建物が2棟並んでいる。手前から外来、事務棟、病棟、中央診療棟の順である。これらの建物は1973年から1976年にかけて建設され、引続き看護婦宿舎、医師住宅が建てられ、病院に必要な施設の整備が進められている。新たに、建替えの必要な建物としては、食堂、厨房と検査室の入っている棟である。この木造の建物は、老朽化が激しく、不潔な印象を与える建物である。

敷地は、面積6ha、北側を国道と接する長方形の地形である。南側の境界近くが小高い丘になっている以外は全体的に平坦な敷地である。タバク市(TABUK)の中心地からは約7km離れているので、周囲には田畑があり、農家が道路沿いに続いている。



View of whole hospital site



Left wing of main building

II-3 KALINGA APAYAO PROVINCIAL HOSPITAL

(II - 4) APARRI EMERGENCY HOSPITAL

(a) 既存建物

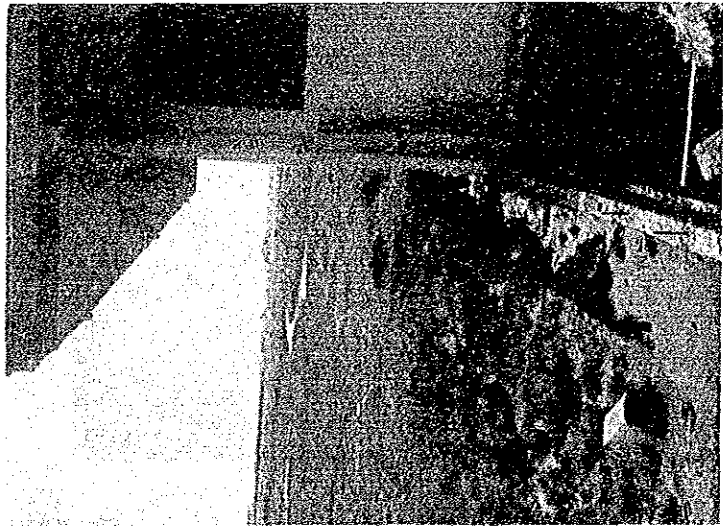
アパリ市内 (APARRI) から海岸に沿って東へ、高床式の木造の民家が並ぶ道路を約 1 Km 行った所にある。2 階建の事務棟、右に病室、食堂・厨房、左手前に検査、診療、奥は手術室が配置された小規模の病院である。この地域一帯は水捌けの悪い軟弱な土質の湿地帯で、病院はこの湿地帯を埋立て地盤の上にて建てられているため、建設工事中に地盤沈下し床に勾配が出来た建物や、完成後建物が沈下したため、床、壁に出来た亀裂が数ヶ所あった。また、水捌けが悪いため建物周囲に水溜りが出来、悪臭が漂い病院の環境としては好ましくない。

(b) 新敷地

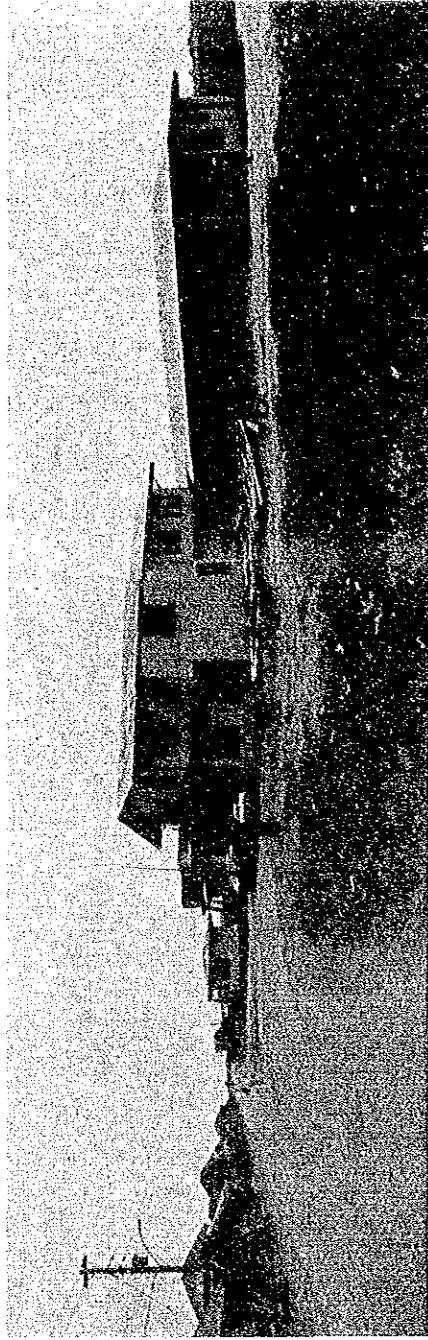
案内された新敷地はアパリ市から 5 Km 程カマラニューガン市 (GAMALANIUGAN) へ戻った日比友好道路沿いにある。この地域は水田地帯で予定地も現在水田として耕作されている。敷地の広さは約 2 ha あるが間口 60m~80m、奥行 260 m と細長い敷地は好ましい形状とはいえない。また、道路より 80 cm 低く、雨期になると、度々道路も冠水することがあり、最低 1.5m は盛土しなければならない。



View of proposed new site



Swamp and hospital



Existing emergency hospital

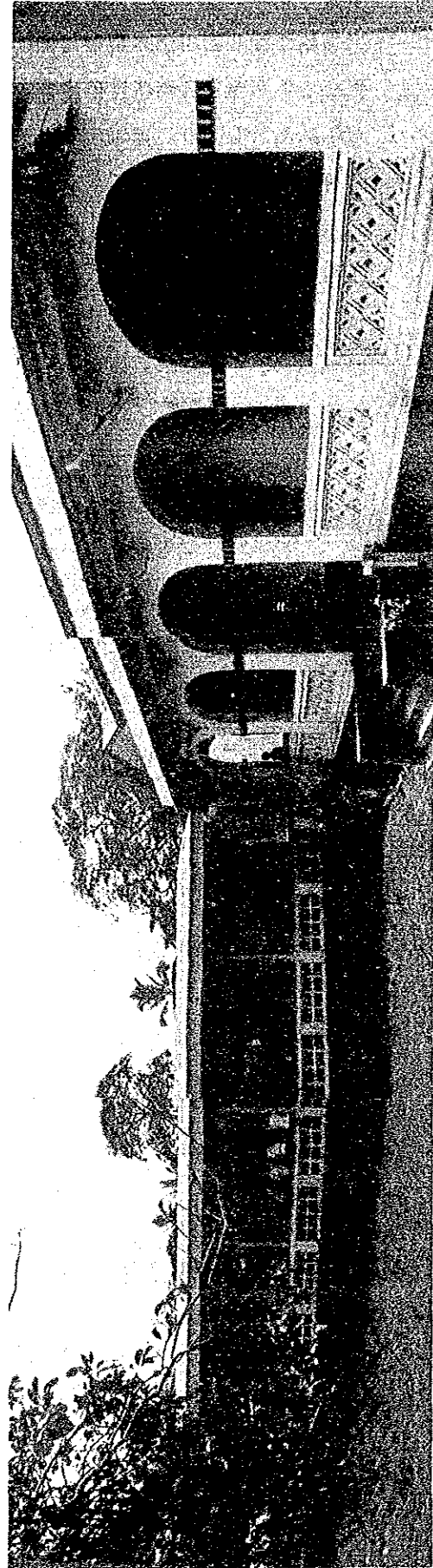
II-4 APARRI EMERGENCY HOSPITAL

(II-5) ISABELA PROVINCIAL HOSPITAL

丘の中腹に広がる赤い屋根は芝生の緑から浮き出て印象的である。敷地は国道に面し、その1/3を庭園、中程1/3を建物、残りの1/3は裏のイザベラ県 (ISABELA PROVINCIAL) の庁舎まで、かなりの急勾配で上っている。約6haある敷地は、東から西にかけて下り勾配の傾斜地で、中程1/3に、1941年に建設したコンクリート造、平屋の本館を中心に、右に外来棟、左に伝染病棟 (Contagious Pavilion) 裏に外科病棟、産科病棟を、更に南に医師住宅、車庫、発電機室、北に看護婦宿舎を増築した。本館は外側に回廊を設けた中廊下式の平面で、その外観デザインとともにイロコス・ノルテ県病院と同じ様式の建物である。建物の使い方が悪いのか、外壁のよごれが目立つ。特に、病棟の窓から水を捨てるため、窓台から下が黒くよごれているのは、建物の管理を徹底すべきである。



Front view of main building



Back view of main building

II-5 ISABELA PROVINCIAL HOSPITAL

(II-6) QUIRINO PROVINCIAL HOSPITAL

道路に面した古い木造の建物は砂塵でその白い壁を黄色に変えている。乾期になると車が通るたびに砂塵を巻き上げ、両側の木々の緑だけでなく、建物をも包み込んでしまう。建物の中にも容赦なく入り込んでくる細粒は建物、医療器材等の維持管理上問題になる。

古い木造の本館の裏に、鉄筋コンクリート造の平屋が2棟工事中であるが、工事は未完成のまま中止されている。南側の棟は仕上げ工事を残し、北側の棟は躯体と屋根までで、間仕切、仕上げを残している。南棟は手術室と病室、北棟は内科、小児科の病室である。更に北側に診療部門と事務部門を入れた棟の計画案がある。

敷地の広さは2.5 haである。全体の1/4程に相当する北側の、現在病院が建てられている部分は一段高いが、残りは低地でその高低差は7~10 mはある。南側の低地には発電機室がある。西側の半分に相当する部分は水田で現在耕作されている。周囲には南側に米倉庫があるが、それ以外目立った施設はない。



View from front road



New building under construction

II-6 QUIRINO PROVINCIAL HOSPITAL

(II - 7) IFUGAO GENERAL HOSPITAL

(a) 既存建物

ラガウエ (LAGAWE) からバナウエ (BANAWE) に通ずる国道 4 号線から山手に 500 m 程入った山頂に木造の建物が群がっている。敷地の平坦な部分は少なく、傾斜地に長い支柱を建て、あるいは半地下とし、その上に木造の建物を建て、利用できそうな場所は全て使用している。1952年に中央の本館と奥の木造3階建の病棟が建てられ、1970年に本館前の事務・相談室が増築された。以後、便所棟を新築しただけで規模は当初と大きな変化はない。すでに増築用の用地が同一敷地内に得られないため、現在90床の病院を別敷地に建設中である。

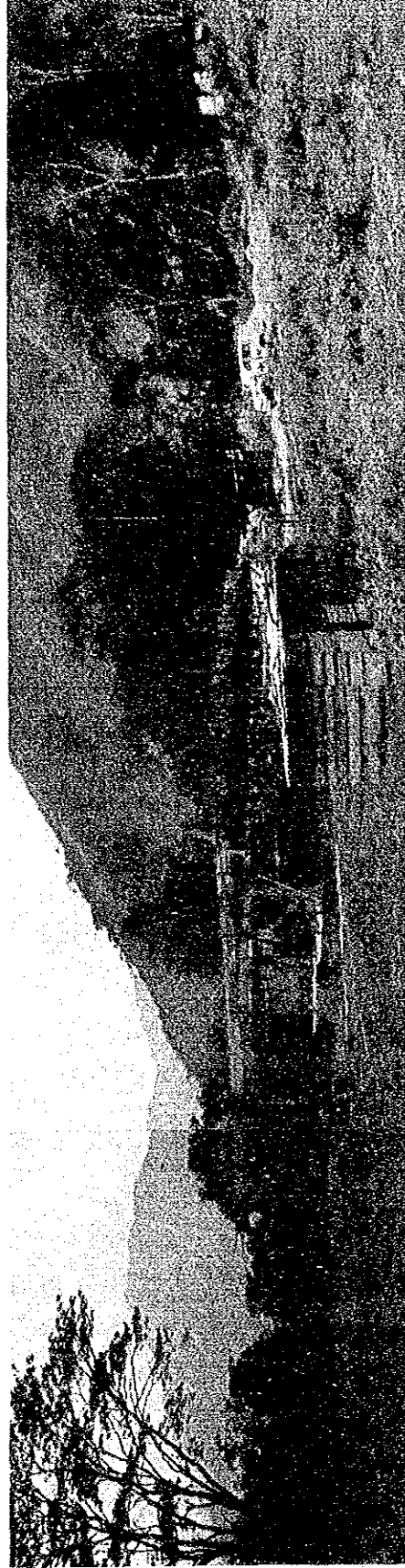
(b) 新敷地

新敷地は現在の病院からバナウエに向って約3Km行った所にある。国道から5m程下った、山の中腹を造成し、そこにB・P・Wの設計による90床の病院の建設が始められていた。今年の本館の1/5に相当する部分を工事する予定で、すでに梁のコンクリート打が終り、壁のコンクリートブロック積が行なわれている。今回のプロジェクトでは、この部分は完成したものとし、その利用方法を考慮し、新たな計画案を作成する。

敷地は西向きで、南北に、山に沿って広がっている。その面積は約2haである。しかし、平坦に造成されているが、まだ南端の一部は5m以上埋立てなければならない。地盤はカットした部分と、谷を埋めた部分があるので建物支持地盤のチェックが必要である。



Old hospital building's main entrance



New site with building now under construction

II-7 IFUGAO PROVINCIAL HOSPITAL

(II - 8) MAJOR FERDINANDO E. MARCOS VETERAN REGIONAL
HOSPITAL

(a) 既存建物

1945年に建てた木造、2階建の本館に平屋の外来棟、病棟が左右に“コ”の字型に配置されている。裏側には渡り廊下を挟み食堂棟、ゲストハウス、車庫、看護婦宿舎、検査室が並び、本館の間に小さな広場を作っている。病院は丘の頂上にある。右隣の学校よりは10m位高いが、平坦な部分が少なく、すでに敷地一杯に建物が建てられているためこの敷地では増築用地は得られない。

(b) 新敷地

既存病院から3Km離れた丘の中腹に造成し、新しい病院を造る計画である。すでにB・P・Wが200病床の病院を建設中で、その一部診療部門、歯科部門、事務部門と150床の病室を備えた本館の工事が8割程進んでいる。この本館は3階建、鉄筋コンクリート造で、延床面積約4,600m²の建物である。全館空調を行ない、各病室には真空配管と酸素配管が施され、中央方式の供給を行なう計画である。フィリピンで見た病院の中でも設備の完備された最上クラスの病院となるであろう。B・P・Wの計画案には本館の他に病棟、食堂棟、看護婦学校、医師、看護婦の住宅宿舎、他サービス関係の棟が含まれているが予算の裏付けはない。

敷地は、丘の中腹を切土し、その土を谷側に押しつけて造成したものである。しかし、盛土部分の擁護と切土した後の法面の擁壁が築造されず放置されているため、雨で法面が崩壊し工事中の建物の裏側が1階分土砂で埋まり、盛土が流出し、未整備な造成工事が目につく。

敷地の周囲は、前面、両側は水田で囲まれ、裏は小高い丘である。病室からみる前面に広がる水田風景、遠景の山並は患者の心を癒すには最も適した環境である。



Old hospital complex



New hospital building in new site (under construction)

II-8 MAJOR. F. MARCOS MEMORIAL HOSPITAL

(II - 9) NUEVA VIZCAYA PROVINCIAL HOSPITAL
 (MAGSAYSAY GENERAL HOSPITAL)

この病院も山の中腹を切土造成した敷地に建てられている。この高台からみるバンバング (BAMBANG) の田園風景、重なってみえる山並は心を和ませてくれるが、平坦な部分の少ない敷地は建物の配置に大きな影響を与えている。十字型のプランをしたこの病院は 50 病床の平屋、コンクリート造の小規模なものである。1976 年、新敷地に建てられたばかりであるが、屋根の塗装の剝離や外壁の汚れが目につくようになってきた。看護婦宿舎が病院の南側、一段高い山の中腹に今年完成する。この他に奥に車庫と発電機室を兼ねた付属棟がある。いずれもコンクリート造、平屋建である。



Main building



Nurse dormitory



View to tennis court

II-9 NUEVA VIZCAYA PROVINCIAL HOSPITAL

(II-10) BATANES PROVINCIAL HOSPITAL

空港から港を結ぶこの島の幹線路沿いにあるこの病院は、この島特有の壁の厚い建物である。石を石灰で固め、厚さ40～50cmもあるような厚壁の建物がこの地方の古い民家に多くみられる。この地域は毎年の台風シーズンには通り道となり、台風の被害を受けてきた経験から厚壁の建物が建てられるようになったのであろう。この壁の厚さはまた、日光の遮蔽や風害から扉や窓を守るために利用されている。しかし、屋根はヤンの葉で葺かれていたので、よく風で飛ばされたようである。

この病院は1946年アメリカの援助により建設され、以後4回増築され現在の規模になった。本館はコンクリート造平屋、1部2階建である。壁厚は50cm～80cmもある。外窓や外部出入口の扉はこの壁厚を利用し、“かんぬき”を外側に掛け、開口部を風や飛来物から守っている。本館の裏に食堂、洗濯、発電気室の棟があり、更に奥には現在途中で工事中止している病棟がある。平屋、コンクリート造、50病床、270m²の規模の建物である。工事は躯体と屋根の工事が終わっているだけで2年もストップしたままである。そのため屋根の亜鉛鍍鉄板に赤錆が発生している。

敷地は、県庁舎 (PROVINCIAL OFFICE)、B・P・Wの出張所や学校等公共施設が立並ぶ一画にある。南にエントランスを取り北に向かって細長く続く台形の形状である。全体に南側が高く北側が低い、その高低差は2.0m位である。広さは3,500m²程で、すでに建物は敷地一杯に建てられ、増築用地はない。

したがって、既存施設を整理しながら増改築を計画する必要がある。



Front view of main building



New building (not completed)

II-10 BATANES PROVINCIAL HOSPITAL